

Library News

栃木県立小山高等学校図書館

小山高校・図書館報(平成26年度)
第2号(6月号) 内容
6月のことば「川端康成」
◇「読み人往来」先生インタビュー vol. 2
◇図書委員が勧める今月の一冊
◇連載コラム:物語の楽しみ
◇インドネシアを知っていますか
◇6月の新刊紹介
編集 小山高校 図書委員会
発行

6月のことば

忘れるにまかせるといことが、結局最も美しく思えるということなんだ。
『散りぬるを』

川端康成(一八九九年六月十四日—一九七二年四月十六日。小説家)。毎月誕生月の作家のことばを紹介しているが今月は川端康成。ノーベル賞作家ということだけあって作品を知らない人はいない。『伊豆の踊子』はじめ何度も映画化された作品があり種々のメディアを通して知る機会も多い。『散りぬるを』は晩年の『眠れる美女』(新潮社)という作品集の中の一編。

我々は日々覚えようと努力をしているが、ついつい忘れてしまうことも多く、勉強不足だとか、年齢のせいにして言い訳にしている。勿論ここで言うようなことは世・事・理に属することではない。年月を経ても忘れない、自然に思い出せるようなことが、本当に最も美しい記憶といえるものが誰にもあると信じているのが……。ところでこの『眠れる美女』、タイトルだけでは童話のような印象だが別の「片腕」という短編では、

「片腕を一晚お貸ししてもいいわ。」と娘は言った。そして右腕を肩からはずすと、それを左手に持つて私の膝においた。

どうしたことか?と戸惑う人がいるだろうが、怪談ではありません。他にも独特の感性が感じられる作品が収められている。教科書に出てくる作家という価値観は、一定の世評を反映しているが一面しかない。小林秀雄は『読書について』で「読書の楽しみは源泉にはいつも『文は人なり』といふ言葉があるのだが、この言葉の深い意味を理解するのは、全集を読むのが、一番手っ取り早い而も確実な方法なのである」と言っている。夏休みには少しだけチャレンジしてみませんか。こちらは名作『雪国』からの言葉です。

なんとなく好きで、その時は好きだとも言わなかった人のほうが、いつまでもなつかしいのね。忘れないのね。別れたあとしてそうらしいわ。

読み人往来

先生にインタビュー vol.2



小山高校の先生方に読書についてお話を伺いました。今週の担当は3年4組56組の図書委員です。登場いただきました先生、ご協力有難うございました。質問は

Q1 高校生のころ読んだ本について
Q2 本の出会いで忘れられないこと
Q3 小高生におすすめの本は?以上です。

国語科 阿久津友紀先生



Q1 小・中学校時代に発掘したのですが、あさのあつこ、香月日輪、たつみや章はデビュー当時から目をつけ、ずっと追いかけていました。あさのあつこは『ハッテリー』、香月日輪は『妖怪アパートの幽雅な日常』などで有名です。今では、売れっ子作家となつてしまいました。まだ無名だった頃から、講演会やサイン会に足繁く通っていた身としては、「私が最初に見つけた」と誇れる気持ちもあります。最近になって、当時の児童向けから、加筆修正され一般向

けに文庫化したものが発売されているので、また買いあさっています。買うときに付いているはずの帯がなかったりすると、違つてお店に行つてまで尋ねたりもしてしまいます。それくらい、一度はまるごと追いつけてしまつて、家には同じ作家関連の物がたくさん並んでいる状態です。息抜きとして読んでいたのは、茅野砂胡の『ディルフィニア戦記』です。長編ですが、思いのほかさらさらと読める本です。本校の図書館にもあるので、読んでみてください。

Q2 高校時代は美術部だったこともあり、画集や絵本も資料として買いそろえていました。特にアルフォンス・ミュシャ、天野喜孝、鶴田一郎、東逸子、きたのじゅんこ、いせひでこ、宇野亜喜良などが好きです。挿絵を描いている本を集めたり、美術館の展示会や、即売会イベント、個展やサイン会に通つたりしました。アルフォンス・ミュシャは今でも人気が高く、ポストカードやグッズが多く出ていますし、天野喜孝は、『ファイナルファンタジー』のキャラクターデザインも担当しているの

で、知っている人も多いと思います。宇野氏は、舞台美術も手掛けたりするのですが、ここ数年、私の好きな劇団の舞台を担当するという嬉しいコラボが実現しました。

Q3 Q1・2で紹介したように、あちこちに足を運ぶと、本をスタートに、行動範囲や自分

の世界が広がります。進路実現のため、「文系だから○○系」な理系だから、○○系の本」など、偏りを作らず、幅広く活字に触れてほしいと常々願っています。ですが、あくまで趣味として手に取る本があつてもいいと思います。米倉斉加年さんの『多毛留』のように質のよい絵本もたくさんあるので、児童向けと思わず、方々手をだしてみてください。この絵本は海外でも激賞された芸術性の高い作品で、内容も深く、読んだ時の衝撃は今でも忘れられないものでした。いせひでこの『ルリールおじさん』、「大きな木のような人」、「まつり」は続きものとして楽しめます。いせ氏は、伊勢英子さんのエッセイを出しているのでも、そちらもぜひ一読してみてください。まだまだ、語りつくせないことがたくさんあります。それくらいに本の魅力は尽きません。この先は皆さん自身で開拓していきましょう!

地歴公民科 落合一憲先生

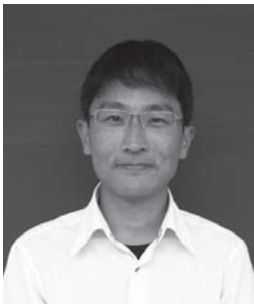


Q1 教科書で安倍公房の作品を読み、興味を持って色々な本を読みました。中でも『砂の女』

について……。この本は、新種の昆虫を見つけるのが好きな男が、砂丘で捕えられ、砂に囲まれた巨大な穴の中で一人の女性と住むことになる話です。男はそこで毎日砂かきをさせられますが、最初は嫌っていた女性もだんだん気になっていき……。Q2 『砂の女』を読み、高校を卒業した後、実際に砂丘まで行きました。実際に砂丘に行つたことで、作品の雰囲気や、リアルに感じることができたとともに、砂丘の美しさを発見しました。

Q3 三島由紀夫の『金閣寺』を薦めます。金閣寺を想つたあまり、金閣寺を燃やしてしまうという実話を基にした興味深い話です。高校時代に読んだ本は知識を深めるだけでなく、一生の宝になります。多くの本を読みましよう!

数学科 伊藤賢二郎先生



Q1・2 高校生の頃に読んだ本の中で最も印象に残っているのは、夏目漱石の『こころ』です。高1だったでしょうか。国語の教科書に「下 先生と遺書」が部分的に載っていて、すぐに、文庫本を買い求めて読みまし

た。通して読み、強いショックを受けたことをよく覚えています。同じ本を二度読むということはありませんが、『こころ』は一度、二度読みました。私、先生、お嬢さん、奥さん、K。「とにかく恋は罪悪ですよ、よござんすか。そうして神聖なものですよ。」「精神的に向上心のないものは馬鹿だ。」「もう取り返しがつかないという黒い光が、私の未来を貫いて、一瞬間に私の前に横たわる全生涯を物凄く照らしました。」登場人物や場面が思い出されます。先生の「明治の精神に殉死する」という言葉も未だに引っ掛かっていて興味の尽きないところです。また読みたくなりますね。

その他、名作と呼ばれる作品は読もうと思ひ、シエークスピアの作品もいくつか読みました。「ハムレット」「リア王」「マクベス」「オセロ」「ロミオとジュリエット」「ヴェニスの商人」「ジュリアスシーザー」などなど。喜劇も悲劇もそれぞれみんな面白かったです。有名な台詞、場面などもたくさんあります。これもまた読みたくなりましたね。

Q3 先に挙げた本などはおすめします。よかったら読んでみてください。名著と呼ばれる名作にはそれだけの理由があるはずです。ワンピースもいろいろ、本も読みましょう。

図書委員が勧める

今月の一冊

山田悠介

『オール』



地元を出て東京の一流企業に入ったものの1年も経たずにやめてしまった健太郎は、刺激のある仕事を求めて「何でも屋」に飛び込みました。そこにはいかにもヤンキーの、それでも元ボクシングの日本チャンピオンになるころまでいった長崎雄太と目が腫れぼったくとても大きな体をした大熊徹という個性

ある花田彰三に出会いました。気になる仕事内容は「法に触れないものなら何でもする」というシンプルなものでした。そんなある日、「午後5時までにごみ屋敷をかたづけたら報酬五〇〇万円」という依頼が無い込んだきました。半信半疑でありながらも現場に向かってみるとそこには予想以上の光景が広がっていました……。山田さん



は「リアル鬼ごっこ」など多くのベストセラー作品を出した人です。是非この本を手にとって山田悠介さんの独特の世界観を楽しんでください。(松)

□ギンター・グラス
『ブリキの太鼓』



今回、私が薦める本は、著者はギンター・グラス「ブリキの太鼓」という本である。グラスはドイツの作家だ。3歳で成長を止めたオスカル少年が、精神病院の中からその人生を語る、ナチス勃興期の激動の時代の物語で、作中の出来事と20世紀前半のドイツとを重ね合わせて読むこともできる。私はこの本を、本当は今紹介したかった。『濫譯龍彦の「快楽図書館」という本で知ったのだが、無事に小山高校の図書室で見つけることができた。(濫譯龍彦の本はサドの翻訳しかなかった) ドイ

ツの作家と聞くと堅苦しいイメージがあるかもしれないが、内容はすこぶるぶつとんであるので、六〇〇ページを楽しく読むことができる。是非、読んでほしい！ (吉)

□有川浩「レインツリーの国」



私がおすすめる本は有川浩さんの「レインツリーの国」です。この本は『ひとみ』という女性が自身の忘れられない本について書いたブログ「レインツリーの国」に向坂伸行が取り敢えずという気持ちでコメントをすることから始まります。

聴覚障がいという難しいワードに触れながら男女二人の複雑な恋愛模様を描いたもので、健聴者である自分たちにとっては理解しづらい部分もありますが、お互いの立場に立って読み耽ることができ一冊です。機会があったらぜひ読んでみてください。(小)

□桜井邦朋『人はなぜ、夜空を見上げるのか』

部活終わりの帰り道。暗い夜道を走る私はふと空を見上げる。そこには煌煌と光り輝く星があった。幼いころの私は、宇宙に対してとても興味を抱いて

定期的な古典文学に触れる機会を持つ私達であるが、訳を読んでも状況がよく理解できない、なぜここで泣き出しこころは笑うのか、分からない時があるという人も多いのではないだろうか。言葉遣いだけでなく、出てくる道具や習慣、感性までもが今とはまったく異なるのだから、それらの知識がなければ物語を楽しむことが出来ないと言っても過言ではないのだろう。しかし、せっかく様々な物語に出会えるというのに面白味を感じることができないなんて、つまらないとは思わないだろうか。

そんな私達の手助けとなるのが、古典文学に通じる作家が書いた本というわけである。筆者の言葉が多く示されているものほど現代語訳の割合は少ないが、その分筆者が感じたその物語の魅力が直球で伝わってくる。

例えば、伊万智は与謝野晶子著「みだれ髪」をその魅力を損なわぬよう語のリズムを変えずに解釈している。また「現代語訳をしたら、いろいろ余計なことや頭が浮く、一言言っただけでやりすぎた」といって「伊勢物語」の内容に触れつつ、人物の行動の真意を現代の人々と比較しながら考えてみたり、歌についてあれこれ思うところを述べてみたり。私達の理解を

アシストしつつも「ここが面白い」というところをばちゃんと紹介してくれているのだ。

こういった本は知識面も大いにカバーしてくれる。「虫愛する姫君」に登場する姫君は虫が好きという変わったお方だが、彼女は虫黒を「煩わしい」と言ってお付けにならないそう。お歯黒を付けるのがたしなみであることは知っているが、現代の私達からしたらお歯黒を付けるといった感覚自体が全く理解できないものであり、そのため皆がするお化粧を一人してなかったのだな、くらいにしか認識できない。しかしこの部分に、坂口由美子は一言「ほの暗い室内に、真っ白な歯が浮かび上がるのは如何なものか」と述べている。その場面を想像してみれば、それがいかに異様なことであるのかを理解することが出来るだろう。この時代において、室内が現代のようにいつでも明るいなどということはあり得ないものであるが、こういう手助けがないとすっかり前提から間違えて考えてしまうものである。

昨年の貸出上位に「源氏物語」が入っていたが、勉強、予習で活用するためにしても、もちろん古典文学をより楽しむためにしても、ただ現代語訳が載っているだけのものではなく、自分の理解を後押ししてくれる言葉の詰まった書籍を手にとってみればいかがだろうか。

私は紹介する本は、斉藤勝裕さんの「マンガでわかる有機化学」です。この本は、化学の中でも難しい有機化学を扱っているというので敬遠する人も多いと思いますが、ですが、この本の前書きに書かれているように、



「マンガでわかる有機化学」

いて、将来は宇宙飛行士になりたかった。みなさんも、一度は夜空の星や無限に広がる宇宙に感動したり、心ひかれたりしたことはないでしょうか？ なぜ、私たちはここまで宇宙に魅力を感じるのでしょうか？ 無論、先人たちが例外ではありません。何万年も前から人類は宇宙の謎に挑み続けてきたのです。この本には、彼らによって明らかにされた宇宙に関する説や、行われた実験の数々が書かれています。多少難しい内容もありますが、宇宙に対する新しい見方が見つかるでしょう。

インドネシアは一九四五年に共和国として独立した、まだ若い国ですが、歴史は古く、ジャワ人の時代まで遡ることが出来ます。近年では、新たにフロレス島でホビットのような背の低いフロレス原人の化石が発掘されて話題になりました。



郊に仏教遺跡の

原人ではなく、現在のインドネシア人に直接つながる人たちが居住し始めたのは約五千年前です。その後8世紀頃には、ジャワ島中部のジョグジャカルタ近

本との貿易の基地でもありました。20世紀初頭にはオランダ領としての、現在のインドネシアの領土がほぼ確定しています。第二次世界大戦中の一九四二年には日本軍が侵攻し、オランダに変わって、支配するようになりまし

た。その一九四五年に日本が降伏し、その2日後の8月17日にインドネシ

アが独立を宣言していま

す。しかし、オランダ軍が再び攻め込んできます。その時、終戦後様々な事情でインドネシアに残っていた日本兵がインドネシアの独

立のために戦っています。多くは、その後、日本には帰らずインドネシア人として暮らしました。現在では、最後のお一人が、インドネシアのマランで家族と共に生活されています。

右側にマンガという構造なので、2ページを読むだけで、興味のある部分を確認できます。化学を学んでいる人で、予習や復習としても便利です。この本で一人でも多くの人が化学に興味を持ち、楽しく理解してくれるといいと思います。(大)

ボロブドゥール、ヒンドゥー教寺院のプランパナを建設した王朝が繁栄しました。13世紀頃からは、イスラム教が徐々に広まり、現在ではイスラム教徒が9割を占める、世界最大のイスラム教徒を抱える国となっています。

17世紀初頭、オランダの東インド会社がジャカルタに商館を設け、徐々に勢力を拡大しました。これは、日本との貿易の基地でもありました。20世紀初頭にはオランダ領としての、現在のインドネシアの領土がほぼ確定しています。

第二次世界大戦中の一九四二年には日本軍が侵攻し、オランダに変わって、支配するようになりまし

た。その一九四五年に日本が降伏し、その2日後の8月17日にインドネシ

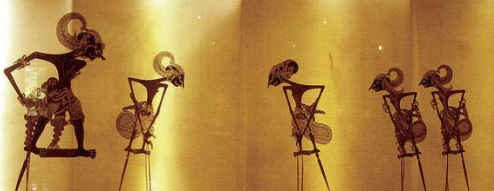
アが独立を宣言していま

す。しかし、オランダ軍が再び攻め込んできます。その時、終戦後様々な事情でインドネシアに残っていた日本兵がインドネシアの独

立のために戦っています。多くは、その後、日本には帰らずインドネシア人として暮らしました。現在では、最後のお一人が、インドネシアのマランで家族と共に生活されています。

職員寄稿 インドネシアを知ってますか？

理科 鈴木 泰代 先生



17世紀初頭、オランダの東インド会社がジャカルタに商館を設け、徐々に勢力を拡大しました。これは、日本との貿易の基地でもありました。20世紀初頭にはオランダ領としての、現在のインドネシアの領土がほぼ確定しています。

第二次世界大戦中の一九四二年には日本軍が侵攻し、オランダに変わって、支配するようになりまし

た。その一九四五年に日本が降伏し、その2日後の8月17日にインドネシ

アが独立を宣言していま

す。しかし、オランダ軍が再び攻め込んできます。その時、終戦後様々な事情でインドネシアに残っていた日本兵がインドネシアの独

立のために戦っています。多くは、その後、日本には帰らずインドネシア人として暮らしました。現在では、最後のお一人が、インドネシアのマランで家族と共に生活されています。

右側にマンガという構造なので、2ページを読むだけで、興味のある部分を確認できます。化学を学んでいる人で、予習や復習としても便利です。この本で一人でも多くの人が化学に興味を持ち、楽しく理解してくれるといいと思います。(大)



家族と共に生活されています。

右側にマンガという構造なので、2ページを読むだけで、興味のある部分を確認できます。化学を学んでいる人で、予習や復習としても便利です。この本で一人でも多くの人が化学に興味を持ち、楽しく理解してくれるといいと思います。(大)

ボロブドゥール、ヒンドゥー教寺院のプランパナを建設した王朝が繁栄しました。13世紀頃からは、イスラム教が徐々に広まり、現在ではイスラム教徒が9割を占める、世界最大のイスラム教徒を抱える国となっています。

17世紀初頭、オランダの東インド会社がジャカルタに商館を設け、徐々に勢力を拡大しました。これは、日本との貿易の基地でもありました。20世紀初頭にはオランダ領としての、現在のインドネシアの領土がほぼ確定しています。

第二次世界大戦中の一九四二年には日本軍が侵攻し、オランダに変わって、支配するようになりまし

た。その一九四五年に日本が降伏し、その2日後の8月17日にインドネシ

アが独立を宣言していま

す。しかし、オランダ軍が再び攻め込んできます。その時、終戦後様々な事情でインドネシアに残っていた日本兵がインドネシアの独

立のために戦っています。多くは、その後、日本には帰らずインドネシア人として暮らしました。現在では、最後のお一人が、インドネシアのマランで家族と共に生活されています。



6月までに新たに購入した図書のリストです。夏休みの長期貸し出しを利用して是非読んでみましょう。



新刊紹介

オリボスの神々と7人の英雄3 アテナの印
リック・リオーダン/作 金原瑞人/訳
小林みき/訳
路上のストライカー
マイケル・ウィリアムズ/作さくまゆみこ/訳
文学理論講義 新しいスタンダード
ピーター・バリー/著 高橋和久/監訳
新書漢文大系 36 史記〈列伝〉3
青木五郎/著 小出貴暎/編
新書漢文大系 35 〔新版〕文選〈文章篇〉
原田種成/著 竹田晃/著 小嶋明紀子/編
新書漢文大系 34 〔新版〕淮南子

楠山春樹/著 本田千恵子/編
新書漢文大系 33 〔新版〕墨子
山田琢/著 山辺進/編
邪悪なものの鎮め方 内田樹/著
美しい星 三島由紀夫/著
小説外務省 尖閣問題の正体 孫崎享/著
海うそ 梨木香歩/著
僕とおじいちゃんと魔法の塔 4
僕とおじいちゃんと魔法の塔 5
妖怪アパートの幽雅な日常 9
妖怪アパートの幽雅な日常10
香月日輪/〔著〕

アヴェ・マリアのヴァイオリン 香川宜子/著
珈琲店タレーランの事件簿3
このミス大賞 心を乱すブレンドは 岡崎琢磨/著
家霊 280円文庫 岡本かの子/著
火群のごとく あさのあつこ/著
雨月物語 新潮日本古典集成 上田秋成/著
太平記 1 兵藤裕己/校注
住吉物語 吉海直人/編著
発心集 現代語訳付き 上 新版
発心集 現代語訳付き 下 新版

角川ソフィア文庫 鴨長明／〔著〕 浅見和彦／訳注 伊東玉美／訳注 御所本四条宮下野集 日本文学の表現機構 読解講義 安藤宏／著 高田祐彦／著 渡部泰明／著 古典的思考 前田雅之／著 平安女子の楽しい！生活 川村裕子／著 文章読本 改版 谷崎潤一郎／著 東大現代文で思考力を鍛える 出口汪 著 日本語スケッチ帳 田中章夫／著 黒船来航日本語が動く 清水康行／著 旅するニホンゴ 異言語との出会いが変えたもの 渡谷勝己／著 簡月真／著 日本語は親しさを伝えられるか 滝浦真人／著 子どものうそ、大人の皮肉 ことばのおもてとウラがわかるには 松井智子／著 近代書き言葉はこうしてできた 田中牧郎／著 じゃって方言なおもしろい 木部暢子／著 正書法のない日本語 今野真二／著 相席で黙っていられるか 日中言語行動比較論 井上優／著 日本語の観察者たち 宣教師からお雇い外国人まで 山東功／著 日本語の考古学 今野真二／著 無敗の男？田中将大 「強さ」をつくった師の流儀 古内義明／著 勝てる野球の統計学 セイバーメトリクス 鳥越規史／著データスタジアム野球事業部／著 孤高の守護神ゴールキーパー進化論 ジョナサン・ウィルソン／著 実川元子／訳 異議あり！新国立競技場 2020年オリンピックを市民の手に 森まゆみ／編 新国立競技場、何が問題か オリンピックの17日間と神宮の杜の100年 横文彦／編著 大野秀敏／編著 仕事道楽 スタジオジブリの現場 新版 鈴木敏夫／著 〈老いがい〉の時代 日本映画に読む 天野正子／著 「アイドル」の読み方 混乱する「語り」を問う 香月孝史／著 ビゴーを読む 明治リアリズム版画200点の世界 清水勲／編著 自分史ときどき昭和史 山藤章二／著 マンガミュージアムへ行こう 伊藤遊／著 谷川竜一／著 村田麻里子／著 山中千恵／著 日本美術全集 第12巻（江戸時代1） 狩野派と遊楽図 辻惟雄／編 泉武夫／編 山下裕二／編 板倉聖哲／編 狩野博幸／責任編集 観光革命 スペインに学ぶ地域活性化 額賀信／著 21歳男子、過疎の山村に住むことにしました 水柿大地／著 中高生のための「かたづけ」の本 杉田明子／著 佐藤剛史／著 日本のヴァイオリン王 鈴木政吉の生涯と幻の名器	井上さつき／著 福島を生きる人びと フォト・ルポルタージュ 豊田直巳／著 産後ケア なぜ必要か何ができるか 福島富士子／著 みつひろみ／著 「豹変する心」の現象学 精神科臨床の現場から 大饗広之／著 ヒューマン なぜヒトは人間になったのか NHKスペシャル取材班／〔著〕 エビジェネティクス 新しい生命像をえがく 仲野徹／著 生命とは何だろう？ 長沼毅／著 宇宙が始まる前には何があったのか？ ローレンス・クラウス／著 青木薫／訳 天才数学者たちの超・発想法 早稲田大学高等学院熱狂の講義 柳谷晃／著 算数的思考法 坪田耕三／著 数学想像力の科学 瀬山士郎／著 大学生のための役に立つ数学 白田由香利／著 橋本隆子／著 市川収／著 鈴木桜子／著 広辞苑を3倍楽しむ 岩波書店編集部／編 替女うた ジェラルド・グロマー／著 遠野物語遭遇と鎮魂 河合俊雄／編 赤坂憲雄／編 教養部のろ教授の大学入門 紀川しのろ／著 大学生の学習ダイナミクス 授業内外のラーニング・ブリッジング 河井亨／著 大学生の学びを育む学習環境のデザイン 新しいパラダイムが拓くアクティブ・ラーニ ングへの挑戦 岩崎千晶／編著 〈育てられる者〉から〈育てる者〉へ 関係発達視点から 鯨岡峻／著 資料で学ぶ日本史120時間 小松克己／著 大野一夫／著 鬼頭明成／著 石井建夫／著 勉強法の科学 心理学から学習を深める 市川伸一／著 主体的学び 創刊号 特集：パラダイム転換 教育から学習へ、ICT活用へ 主体的学び研究所／編 3.11で僕らは変わったか もんじゅ君対談集 もんじゅ君／著 3.11を心に刻んで2014 岩波書店編集部／編 アルコールとうつ・自殺 「死のトライアングル」を防ぐために 松本俊彦／著 文化系女子という生き方 「ポスト恋愛時代宣言」！ 湯山玲子／著 子どもが育つ条件 家族心理学から考える 柏木恵子／著 女のからだ フェミニズム以後 荻野美穂／著 高学歴女子の貧困 女子は学歴で「幸せ」になれるか？ 大津奈穂子／著 栗田隆子／著 大野左紀子／著 水月昭道／監修 ひとり親家庭 赤石千衣子／著 高校・大学から仕事へのトランジション 変容する能力・アイデンティティと教育	溝上慎一／編 松下佳代／編 日本の労働を世界に問う ILO条約を活かす道 牛久保秀樹／著 村上剛志／著 意味とシステム ルーマンをめぐる理論社会学的探究 佐藤俊樹／著 グローバルゼーションとリスク社会 岡本浩一／編 パトリシア・スイッペル／編 新・世界経済入門 西川潤／著 憲法読本 第4版 杉原泰雄／著 日本は戦争をするのか 集団的自衛権と自衛隊 半田滋／著 中東から世界が見える イラク戦争から「アラブの春」へ 〈知の航海〉シリーズ 酒井啓子／著 国家安全保障基本法批判 青井未帆／著 21世紀はどんな世界になるのか 国際情勢、科学技術、社会の「未来」を予測する 眞淳平／著 反・幸福論 佐伯啓思／著 社会は絶えず夢を見ている 大澤真幸／著 地図で学ぶ日本の歴史人物 ちず＋ずかん＝ちずかん 平凡社編集部／編 池上彰／監修 カエサル 貴族仲間嫌われた「英雄」 毛利晶／著 聖徳太子 倭国の「大国」化をになった皇子 大平聡／著 唐物の文化史 舶来品からみた日本 河添房江／著 聞くこととしての歴史 歴史の感性とその構造 大橋良介／著 ガザリー 古典スナ派思想の完成者 青柳おる／著 日本人の信仰心 前田英樹／著 超解読！はじめてのヘーゲル『精神現象学』 竹田青嗣／著 西研／著 語りえぬものを語る 野矢茂樹／著 「不自由」論 「何でも自己決定」の限界 仲正昌樹／著 哲学入門 戸田山和久／著 今こそ読みたい児童文学100 赤木かん子／著 理工系コンピュータリテラシー MSOffice2013対応 工学院大学情報基礎教育運営委員会／編 加藤藤／著 田中久弥／著 飛松敬二郎／著 山崎浩之／著 学園キャリアの作り方 小林弘司／著 ジャヤセーナ・パスマシリ／著 鈴木絢女／著 藤野友和／著 望月俊孝／著 渡邊俊／著 ドーナツを穴だけ残して食べる方法 越境する学問？穴からのぞく大学講義 大阪大学ソセキプロジェクト／編 池上彰の教養のススメ 東京工業大学リベラルアーツセンター編 池上彰／著
--	---	--

以上

吉田 向希 松本 直樹（3の4）
黒川 拓真 小島遼太郎（3の5）
大橋くるみ（3の6）

第2号編集担当

後記
編集
期末試験が終わるといよいよ夏休み。みなさんはどんな計画を立てていますか、3年生は受験勉強をしなければなりませんし、部活動は合宿や遠征など休み暇もないでしょうが、長期の休暇のうちに愛読書と呼べるような本と出会ってほしいと思います。面接や小論文の対策にも読んでおきたい本があります。夏休みに入る前には是非図書館に足を運んであなたが手にとってくれることを待っている本と出会うて見ませんか。

すべての物事は自然のままにしておくこと「秩序ある状態」から「無秩序な状態」に移行していく（エントロピーの増大）。宇宙で繰り返される星の生成・消滅、地球上の生命の誕生・死滅はどちらも共通の力学により説明できるのだろうか。宇宙の力学は人間の精神機能をも生み出したのだろうか？精神病理学者の井上さんは、私たちの頭脳は理性的発達しながら矛盾を生み出す非理性的機能（心）を抱えているという。大阪大学の学生と教授が「知の世界」に触れる機会を立ち上げたソセキプロジェクト「ドーナツを穴だけ残して食べる方法」の執筆者の一人。人間は無生物の宇宙から自らの秩序を守り発展してきたから生命の誕生は大きな謎であるが、同時に人間は理性を持ちながらも非理性的な心を宿しているから文明が進んでも戦争は絶えないと考える。なぜ？ 私たちは無限に存在する。有限を超えて生きる。日常生活は同じことの繰り返しだ。だから私たちは、毎朝有限である人間であることを窒息しないよう、常に現在を乗り越えようとし、自由を確保し、可能性を抱く。ドーナツの穴は有限世界に開いた穴でその穴から私たちは無限をのぞき見ている。



然のままにしておくこと「秩序ある状態」から「無秩序な状態」に移行していく（エントロピーの増大）。宇宙で繰り返される星の生成・消滅、地球上の生命の誕生・死滅はどちらも共通の力学により説明できるのだろうか。宇宙の力学は人間の精神機能をも生み出したのだろうか？精神病理学者の井上さんは、私たちの頭脳は理性的発達しながら矛盾を生み出す非理性的機能（心）を抱えているという。大阪大学の学生と教授が「知の世界」に触れる機会を立ち上げたソセキプロジェクト「ドーナツを穴だけ残して食べる方法」の執筆者の一人。人間は無生物の宇宙から自らの秩序を守り発展してきたから生命の誕生は大きな謎であるが、同時に人間は理性を持ちながらも非理性的な心を宿しているから文明が進んでも戦争は絶えないと考える。なぜ？ 私たちは無限に存在する。有限を超えて生きる。日常生活は同じことの繰り返しだ。だから私たちは、毎朝有限である人間であることを窒息しないよう、常に現在を乗り越えようとし、自由を確保し、可能性を抱く。ドーナツの穴は有限世界に開いた穴でその穴から私たちは無限をのぞき見ている。